

2024年度 総会・懇親会の開催報告

2024年10月19日（土）17：30から山上会館で、総会・懇親会を開催しました。総会の議案は、①第1号議案：2023年度事業報告・決算、②第2号議案：2024年度事業計画・予算、③第3号議案：理事、監事の選任、で、いずれも承認されました。

東京大学親和会 第173回総会・懇親会

司会：杉山事務局長

開会挨拶	森川会長	17:30～
総会議案審議	第1号議案 2023年度事業報告・決算	17:35～
	第2号議案 2024年度事業計画・予算	
	第3号議案 理事・監事の選任	
懇親会		17:45～
乾杯		
化学・生命系&工学系近況報告		18:00～
第8回親和会会長杯ゴルフ大会報告		18:30～
本郷ランチ事情最前線		18:50～
閉会挨拶	大久保副会長	～19:30

2024年10月19日

東京大学工学部化学・生命系同窓会

親
和
会
会
報

向坊 隆書

54号

2025. 7

なお、第3号議案で以下の理事、監事が選任されました。（敬称略）

会 長	森川 宏平	82年合成化学科卒
副 会 長	大久保達也	83年化学工学科卒
事務局長	杉山 弘和	01年化学システム工学科卒
理 事	酒井 裕一	79年工業化学科卒、
	辺見 昌弘	81年工業化学科卒、
	松野 祐治	85年化学工学科卒、
	廣田 憲之	92年合成化学科卒、
	大友順一郎	94年工業化学科卒、
	内田さやか	97年応用化学科卒、
監 事	山本 光夫	97年化学システム工学科卒



また、総会終了後懇親会が開催されました。懇親会では、乾杯の後、津本理事による化学・生命系&工学系近況報告、尾嶋前監事による第8回親和会会長杯ゴルフ大会報告、高橋特任講師による本郷ランチ事情最前線の講演がありました。



森川会長挨拶



集合写真

● 2025年度 親和会 講演会、総会・懇親会のお知らせ ●

日 時：2025年10月18日（土） 講演会：15：30～（開場 15：00）
総会・懇親会：17：30～19：30（受付開始 17：00）

場 所：東京大学本郷キャンパス 講演会：工学部5号館51号講義室
総会・懇親会：フォーレスト本郷内
「レストラン&カフェ セルフィーユ」

2025年度 第1回理事会

2025年5月24日（土）、9時30分からオンラインで第1回理事会を開催しました。理事会の議案は、①第1号議案：2024年度事業報告・決算、②第2号議案：2025年度事業計画・予算、で、いずれも承認されました。

講演会

2024年10月19日（土）、総会に先立ち工学部5号館51番教室で講演会を開催しました。講演会の講師、テーマは以下のとおりです。

講 師：野地 博行 先生（東京大学工学系研究科応用化学専攻教授）

テーマ：細胞のエネルギー変換素子APT合成酵素の生物物理化学



野地先生



講演会

研究室紹介

東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻山口研究室（山口教授執筆）

私達の研究室は、2016年に工学系研究科応用化学専攻においてスタートしました。2025年5月に鈴木康介先生が新領域創成科学研究科物質系専攻の教授に着任されました。現在は、教授1名、講師1名、助教1名、特任助教1名、研究員2名、秘書1名、博士学生8名、修士学生13名、学部学生6名、特別聴講生1名の総勢35名で研究活動をしています。

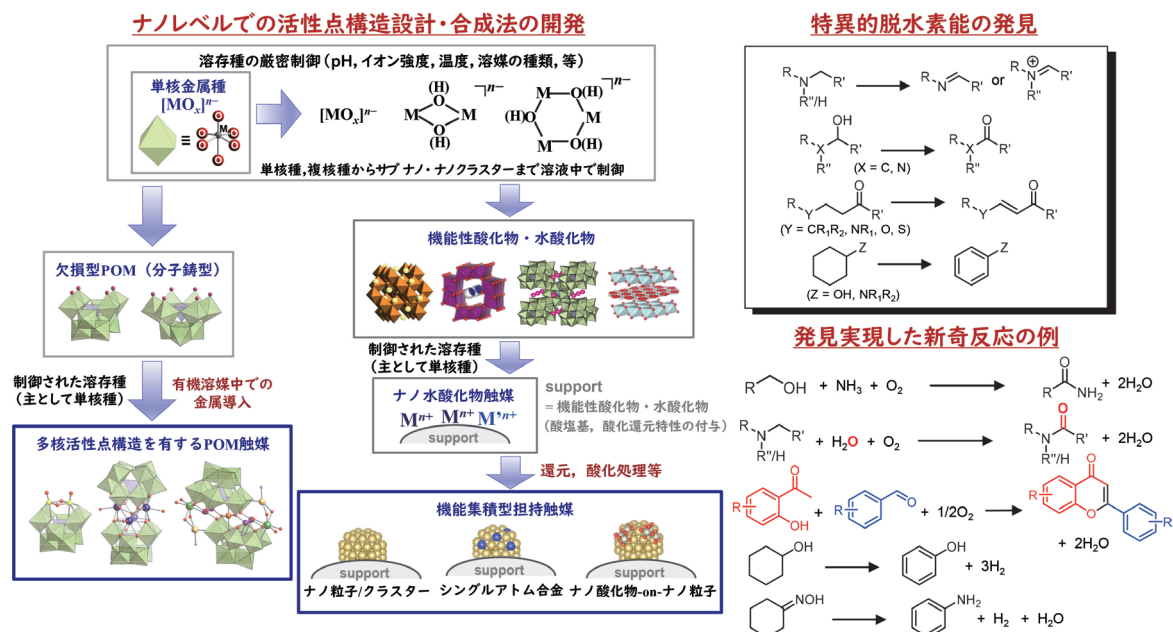


私達の研究室では、一貫してグリーンケミストリーを指向した高効率液相有機合成、特に開発の遅れている触媒酸化反応のための高機能固体触媒の開発に関する研究に従事してきました。私達の研究室では、固体触媒の分野に新しい分子論的な設計概念を導入し、独自の視点・手法から創出したナノ構造触媒を用いると、様々な高効率有機合成反応（ワンポット合成を含む）が実現できることを明らかにしてきました。

例えば、ポリオキソメタレート触媒による過酸化水素有効利用率>99%の酸素化反応、ナノ水酸化物触媒が有するBronsted塩基とLewis酸の協奏的な基質の活性化を利用した高効率酸化反応、結晶性ナノマンガン酸化物の酸化力・水の活性化能を利用したアミド化反応などのいくつかの環境調和型の新反応の開発に成功しています。パラジウム、金あるいはそれらの合金ナノ粒子の特異的脱水素能を新たに発見しています。それらを利用したアミンの活性化や脱水素芳香環形成反応を利用した様々なグリーンな反応の開発に成功しています。

このような反応は、私達の独自のナノ構造触媒ならびに固体表面の精密設計・機能集積化によって初めて実現した固体触媒ならではの反応です。これらの反応は、安価で入手可能な原料の使用可能、空気中の酸素を酸化剤として使用可能、アンモニアを窒素源として使用可能、副生成物が水や水素のみであり、従来の合成法と比べて圧倒的に環境調和型の反応といえます。これまでの固体触媒研究は、単に均一系触媒を固定化したものを既存の反応に適用し、活性や再使用性などを議論するだけの研究が数多くを占めていました。一方、私達のおこなってきた固体触媒研究は、ただ単に活性種を固定化するだけではなく、均一系触媒で

も実現されていなかった新反応開発のための活性点構造の創出や機能の集積化を独自の視点・手法で行ったという点で、これまでの固体触媒研究とは一線を画すと自負しています。



また私達の研究室は、無機配位子として機能する分子状金属酸化物（ポリオキソメタレート）を設計し、有機溶媒中でこれを「分子鑄型」として用いる独自の金属酸化物設計法を開発してきました。ポリオキソメタレートを分子鑄型として用いて、同種金属を一段階で配列する合成法に加えて、異種金属を選択的に精密配列できる逐次合成法を開発し、様々な触媒特性や磁気特性を示す金属酸化物材料を開発しています。また、外部刺激に応じて構造変換が進行し、センサーとしての利用が期待できる金属酸化物の合成にも成功しています。さらに、ポリオキソメタレートを分子鑄型として用いるだけでなく、導入する金属等との協奏作用を利用することにより、既存の触媒を凌駕する活性や新たな反応性を示す触媒の開発や、分子内電荷移動を利用した可視光応答型酸化還元触媒の開発など、金属酸化物の設計における新たな方法論を開拓してきました。このように、私達は独自の分子性金属酸化物材料の精密設計技術を開発し、高機能材料の創製に向けて新しい方法論を開拓することを目指しています。最近では、ポリオキソメタレートを用いて、金属ナノクラスターや有機・無機ハイブリッドナノ材料を合成することにも成功しており、これらを触媒として用いた高難度反応の開発にも取り組んでいます。今後、鈴木康介教授が柏キャンパスで独立した研究室にてポリオキソメタレート関連研究を実施することになります。

最近、私達は福島国際研究教育機構（F-REI）の委託事業「バイオ統合型グリーンケミカルプロセスによるCO₂資源化」を実施しています。本事業では、福島におけるバイオマス由来の原料ガスをカーボンニュートラル炭素の原料とし、再生可能エネルギー由来の水素も活用して有用なグリーン化学品（主に液体燃料）を得るプロセスの統合化に関する研究開発をおこなっています。

これからも、上記のような研究を通じた人材育成や、研究成果を通じた社会貢献を進めていきたいと考えております。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



西村肇さんを偲ぶ会



化学工学科（後に化学システム工学科）の西村肇名誉教授が昨年11月に享年91歳で亡くなりました。葬儀は家族葬で行われたため、ご遺族の了解を得て、西村研究室の卒業生が中心となって「西村肇さんを偲ぶ会」を企画し、2025年4月12日に東大構内の山上会館で開催しましたので、ご報告します。

西村さん（本来は「西村先生」とお呼びするべきですが、「研究室内では対等の関係なのだから『先生』と呼んだら罰金」という時代もありましたので、あえて「西村さん」とします）は、最初の主著「化学プロセス工学」から、最後の著書「気品あるアタマと冒険ある実践」に至るまで一貫して、論理的な構築と体験的な実践の両面を重んじ、貫いた人でした。ことに東大退官後に研究・執筆され毎日出版文化賞を受賞した代表作「水俣病の科学」に見られる、量子化学からプロセス工学、生物学、そして環境科学までの幅広い分野をまたいだ独創的な研究と問題解決こそ、西村さんの真骨頂であり、その学風は、研究室や全学ゼミで学んだ学生たちに大きな影響を与えてくれたと思います。

そんな西村さんが残された著書や写真などを持ち寄り、遺徳を語らうと共に、美味しい食事を友人と楽しむことを好まれた故人にならい、和やかな会食のひとつになればと願って、偲ぶ会を企画しました。

当日は、西村研卒業生や西村さんが駒場生も含め広く対象にして開催していた全学ゼミナールの参加者、研究や出版で関係のあった学外の方々など、40名以上の方々が出席されました。またご令室・西村尚子様とご息女・椎名織香様、それに西村さんの従甥（いとこの息子さん）の西村敏様にもご参加いただきました。

偲ぶ会は、平尾雅彦幹事（1981年卒）の司会のもと、特に西村さんと卒業後も親交があり最後の著書の出版の際のクラウドファンディングの中心でもあった佐藤知一幹事（1980年卒）が開会の辞を述べ、黙祷の後、西村研第一期生の松山久義氏（1963年卒）のご挨拶とご発声で献杯をして開始されました。

その後、大学で共に教鞭をとられた幸田清一郎氏、環境研究時代の教え子である柳沢幸雄氏（1971年卒）、そしてバイオテクノロジー研究に移られた時の最初の教え子である養王田正文氏（1982年卒）から、それぞれ思い出話が語られ、さらに何人かの参加者から昔話が語られました。東大紛争時代や環境研究時代の「闘争」の逸話、英語で行った研究室内でのコロキアム、卒業後も突然電話がかかってきて「〇〇はけしからん」とおっしゃって議論を始められたことなど、研究者として一流であることに間違いはないが、人間としては良く言えばユニークな、悪く言えばちょっと困ったところもある方だったというのが、参加者の一致した意見のようでした。

西村さんは当初のプロセス工学から環境研究、バイオテクノロジーの研究と、主たる研究分野には変遷がありましたが、会場に展示された西村さんの著書は、これら研究分野の本の他に、ノーベル賞を受賞した中村修二氏に支払われた対価を検証する「人の値段 考え方と計

算」や、中・高校生向けの「冒険する頭」、さらには「サバイバル英語のすすめ」「日本破産を生き残ろう」など、テーマが多岐にわたっており、参加者も初めて見る著書があったようで、手にとって語り合う姿が見られました。また、会場展示はありませんでしたが、瀬戸内海の汚染や福島原発事故による放射性物質の拡散に関するものを含め、雑誌などへの投稿も数えきれないほどでした。

西村さんは、テーマが異なっても、前述したように一貫してシステム工学の考え方で事実と理論により物事を整理して課題を解決することを好まれ、同時に実践を重視された方でした。最後の自伝的な著書に書かれたように、子供の頃に日本が敗戦し満州から引き揚げられ戦後生きられた経験から「真剣な生き方」をされたが故に、物事への中途半端な取組は許さなかったのだと思います。

会場では、参加者やご欠席の方から届けられた写真やメッセージがスライド映写され、平泉泰さん、上田宏さんら、若くして亡くなられた同僚や卒業生たちと、今頃あちら側で語り合っているだろうという声もありました。

閉会に当たり、ご自宅を訪問した多くの人たちを肇さんとともにもてなしていただいたご令室・尚子様から、思い出と謝辞が述べられ、一同で記念撮影をして、2時間弱の会はお開きとなりました。集まって喫茶店に行こうというグループもあったようです。参加された方々は様々な分野の第一線で活躍されており、西村さんが多くの人材を育てたことを雄弁に物語っていると思われました。

最後に、敢えて罰金を覚悟で、「西村先生、ありがとうございました！ ご冥福をお祈りいたします。」
(幹事一同：佐藤知一、平尾雅彦、早水輝好、永合由美子)



偲ぶ会の様子



展示された著書等



集合写真

—西村 肇さん 著書リスト—

タイトル	発行年	共著者	出版社
化学プロセス工学	1969年	矢木 栄	丸善
裁かれる自動車	1976年		中央公論社
トイレットからの発想 (ヴァン・デア・リン著)	1980年	西村 肇・小川 彰 訳	講談社
冒険する頭	1983年		筑摩書房
工学のためのバイオテクノロジー	1986年	三浦謹一郎・井上 祥平・古崎新太郎	講談社サイエンティフィク
コンピューターはいい化学者	1989年	山口 兆・吉田 元二	東京化学同人
国際マーヴェリックへの道	1990年	今北 純一・柳沢 幸雄ほか	筑摩書房
サバイバル英語のすすめ	1995年		筑摩書房
古い日本人よさようなら	1999年		本の森
見えてきたガンの正体	1999年		筑摩書房
水俣病の科学	2001年	岡本 達明	日本評論社
ゲノム医学入門	2003年		日本評論社
日本破産を生き残ろう	2003年	—	日本評論社
人の値段 考え方と計算	2004年	—	講談社
米国 ユダヤ人 キリスト教の真実	2011年		本の森
自由人物理	2017年		本の森
気品あるアタマと冒険ある実践	2022年		丸善プラネット





第8回 ゴルフ大会の開催

2024年4月27日（土）、埼玉県日高市のJゴルフ鶴ヶ島において標記ゴルフ大会を開催しました。2023年5月に新型コロナが五類になったことをきっかけに4年ぶりに第7回ゴルフ大会を開催したところ、是非毎年やりたい、との強い要望が出され、今回の開催となりました。

幹事は前回優勝・BBの石井浩さん（S41年卒）と伊藤東さん（S41年卒）が務められ、急病で欠席者が出たものの17名が参加して熱戦を繰り広げました。森川会長（S57年卒）の豪快な始球式に続いて5組でスタートしました。小宮山宏元総長（S42年卒）も90台のスコアで健闘されました。

優勝はH8年卒の濱村浩孝さん（gross 91、net 73、ドラコンも）で、準優勝はH18年卒の小田光太郎さんでした。前回は、ご高齢のメンバーが優勝、ベスグロと頑張っておられ、もっと若手と呼ばなくちゃ、と叱咤激励されましたが、今回は若手（30代、40代）数名も参加し、活気あふれる大会となりました。

なお、第9回ゴルフ大会は、2025年4月に開催されました。次号に掲載します。



OBOG懇談会の開催

2025年6月2～3日の午後、5号館51番教室で卒業生による企業説明会を開催しました。参加企業は以下のとおりです。各法人10分の説明の後、法人ごとに分かれて学生との質疑応答、意見交換が活発に行われました。

6月2日（月）

13:00～	開会挨拶		
13:10～	基調講演 親和会森川会長		
13:40～	UBE (株)	13:50～	(株) レゾナック
14:00～	花王 (株)	14:10～	みずほリサーチ&テクノロジーズ (株)
14:20～	住友電気工業 (株)	14:30～	日本製鉄 (株)
14:40～	(株) 日立製作所	14:50～	(株) IHI
15:00～	個別相談会		

6月3日（火）

13:00～	開会挨拶		
13:10～	AGC (株)	13:20～	(株) 日本触媒
13:30～	日鉄ケミカル&マテリアル (株)	13:40～	JSR(株)
13:50～	パナソニックエナジー (株)	14:00～	ENEOS (株)
14:10～	三菱ケミカル (株)	14:20～	東レ (株)
14:30～	電力広域的運営推進機関		
14:40～	個別相談会		



■ 2023年度決算(単位:円)

		予算	決算
前期繰越金		2,729,353	2,729,353
収入	年会費	2,600,000	2,405,000
	総会参加費	500,000	594,000
	利子	20	20
	合計	3,100,020	2,999,020
支出	会報50号印刷・発送	800,000	972,873
	会報51号印刷・発送	350,000	514,404
	総会開催費	500,000	512,890
	会員システム利用料	500,000	508,200
	各決済手段手数料	250,000	232,523
	(郵貯振替/クレジット決済/口座自動引落)		
	事務委託料	800,000	800,000
	雑費	10,000	9,585
	合計	3,210,000	3,550,475
収支		▲109,980	▲551,455
次期繰越金		2,619,373	2,177,898



2024年度決算(単位:円)

	予算	決算
前期繰越金	2,177,898	2,177,898
収入 年会費	2,400,000	2,636,000
総会参加費	500,000	465,999
利子	20	264
合計	2,900,020	3,101,264
支出 会報52号印刷・発送	950,000	1,017,152
会報53号印刷・発送	500,000	456,579
総会開催費	500,000	421,745
会員システム利用料	500,000	604,560
クレジット手数料	230,000	242,021
事務委託費	800,000	800,000
雑費	10,000	2,820
合計	3,490,000	3,544,877
次期繰越金	1,587,918	1,734,285

2025年度予算(単位:円)

前期繰越金	1,734,285
収入 年会費	2,600,000
総会参加費	500,000
利子	250
合計	3,100,250
支出 会報54号印刷・発送	0
会報55号印刷・発送	500,000
総会開催費	450,000
会員システム利用料	600,000
クレジット手数料	240,000
ホームページ管理	100,000
事務委託費	800,000
雑費	3,000
合計	2,693,000
次期繰越金	2,141,535



※2025年3月31日現在

以下の異動がありました。(敬称略)

- 採用
 - 4月1日 教授 内田 健一 応 化
 - 6月1日 特任教授 長谷川龍一 化シス
 - 6月1日 講師 木下 卓巳 化シス
 - 7月1日 特任講師 高橋 講平 化 生
 - 9月1日 特任教授 金 有洙 応 化
 - 10月1日 准教授 中西 勇介 応 化
 - 11月1日 特任教授 KIM DO HEUI 化シス
- 昇任
 - 4月1日 講師 栗山 翔吾 応 化
 - 4月1日 講師 山崎 康臣 応 化
 - 4月1日 講師 岸本 史直 化シス

- 4月1日 講師 小畑 圭亮 化シス
 - 7月1日 准教授 金 雄杰 化 生
 - 2月1日 准教授 森本 淳平 化 生
 - 3月1日 講師 KO SEONGJAE 化シス
- 退職
 - 11月30日 講師 栗山 翔吾 応 化
 - 11月30日 准教授 渡邊峻一郎 応 化
 - 3月31日 教授 加藤 隆史 化 生
 - 3月31日 特任教授 竹内 久雄 化シス
 - 3月31日 准教授 岩崎 孝紀 化 生
 - 3月31日 特任准教授 作道 直幸 化 生

年会費納入のお願い

年会費 2,000円

親和会は皆様の年会費で運営しています。年会費のお支払いを御願います。

●郵便局から振込の場合 …………… ゆうちょ銀行振替口座番号：00160-2-29506

●民間銀行からゆうちょ銀行への振込の場合 …… 振替用口座番号：〇一九（ゼロイチキユウ）店
当 座：0029506

加入者名：親和会年会費係（シンワカインセンカイヒカカリ）

●クレジット払いの場合

親和会ホームページのWEB会員管理システムからログインし、「会費納付の確認」に入りお支払いください。パスワードがご不明な場合は、事務局までご連絡ください。

（事務局からのご連絡）

現在は会報を年2回発行し、5月頃に発行する春号はweb会員システムに住所が登録されている約6500名の生存会員に発送し、9月頃に発行する秋号は過去5年に最低1回年会費をお支払いいただいた会員に送付していました。

今年度2025年度からは経費（特に郵送費）削減のため、春号は親和会ホームページでの公開、秋号は過去5年に最低1回年会費をお支払いいただいた会員に送付することといたします。従いまして、昨年度まで春号の同封してた会員情報確認書類、会費振込書類等は、今年度からは秋号に同封させていただきます。

ご理解のほど、よろしくお願いいたします。



親和会事務所

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学工学部5号館

電話&FAX 03-5841-7400

E-mail: shinna@chem.t.u-tokyo.ac.jp

事務局：堀 雅文

なお、常勤ではありませんので、ご連絡はメール、留守電、FAXでお願いします。

編集後記

親和会の活動については下記ホームページでご覧いただけますので、是非、ご確認下さい。 ⇒ <http://shinnakai.com/>

